

IDEC横浜

支援事例集 2025

経営のこと、相談しよう！



IDEC横浜のビジネス支援



テーマ

支援メニュー

脱炭素

脱炭素相談窓口

脱炭素化の取組や補助金等の相談、申請サポート、温室効果ガス排出量・電気使用量把握のためのセルフ診断など「脱炭素化」に向けた支援を実施しています。

省エネ

技術相談

技術的な課題や相談に、豊富な知識と経験を有する専門家「技術アドバイザー」が訪問し、解決に向けたアドバイスを行います。

創業

ワンストップ経営相談窓口

経営上の課題や創業等に関する疑問について、総合的に応える相談窓口(無料)です。中小企業診断士をはじめ税理士、社会保険労務士、弁護士などの専門家とIDEC横浜職員が対応します。

デザイン

デザイン相談

Web・SNS、ブランディング、空間デザイン、写真・動画など、デザインに関する課題について、プロのデザイナーによるアドバイスが受けられます。

資金調達

エキスパート面談

「経営戦略」「IT活用」「税務・会計」「販路開拓」「法務・労務・特許」等、さまざまな企業の経営課題に、「横浜ビジネスエキスパート」が具体的かつ専門的なアドバイスを行います。

DX

デジタル化相談

専門家が訪問し、業務の効率化など事業者のデジタル化に関する相談を実施しています(年度内3回無料)。

CSR

横浜型地域貢献企業認定制度 (CSR)

企業の社会的責任(CSR)を意識し、本業その他の活動を通じて優れた地域貢献活動に取り組む企業を一定の基準をもとに認定する制度です。事業活動に必要なマネジメントシステムの構築と運用に取り組むことで、企業の経営戦略にいかすことができます。

海外展開

海外展開助成金

海外の展示会出展等を行う市内中小企業者向けに、展示会出展費用等の一部を助成します。展示会出展等に関する各種相談などをあわせて実施しているため、展示会出展等での目標数値や実績予定などを具体的にイメージできます。

入居企業

横浜新技術創造館入居に伴うIMの伴走支援 ほか

横浜新技術創造館では、新技術開発・新事業展開を目指すベンチャー・スタートアップ企業である入居者の方へ、IMが経営や技術的課題の相談に応じ、個々の入居者に寄り添った継続的な支援を実施しています。





目次



歴史ある企業から始まる脱炭素への挑戦

荒木工業株式会社

4

専門家の助言を受けて製造ラインを止めずに設備更新

日生発條株式会社

5

パン教室から社会起業へ

情熱を形にした挑戦と経営相談窓口で得られた自信

一般社団法人Heart Care Salon 木洩れ日

6

ブランド認知拡大のために展示会に初出展

一貫した世界観を伝えるブランディング支援

株式会社TASK LAB.

7

デザインから製作までALL横浜で実現

コロナ禍での挑戦が生む横浜の新たな賑わい

株式会社N and R Foldings Japan

8

見積りから発注、納品、請求までの作業のシステム化の実現

有限会社浅一

9

CSR マネジメントシステムの構築と運用

課題への継続的取組により経営力の更なる向上

雨宮自動車工業株式会社

10

生牡蠣を世界の食卓へ

海外展開助成金を活用し新たな海外市場を開拓

日本石花株式会社

11

エネルギー問題を解決する夢の素材

ダイヤモンド半導体の研究開発スタートアップへの

資金調達支援

株式会社VISION IV

12

歴史ある企業から始まる 脱炭素への挑戦



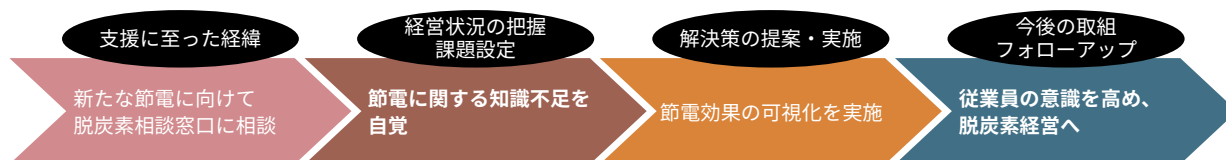
金沢工場内設備を操作する従業員



創業期の作業風景

荒木工業株式会社

【所在地】 横浜市中区山下町166
 【業種】 製造業
 【URL】 <https://arakikougyou.jp/>
 【TEL】 045-681-2366



支援に 至った経緯

挑む新たな節電の道

同社は、明治21年に創業、今年で137年（2025年現在）の歴史ある企業です。常に流れ続ける時代において変化を続けてきました。現在、世界ではSDGsの目標達成に取り組んでいます。同社にとっても更なる省エネ、節電への対応が求められている中、これまでのこまめな消灯などに加え「もっと良い節電方法があるのでは？」と疑問を抱いていたところ、I D E C横浜の「脱炭素相談窓口」を知り、相談することになりました。

経営状況の 把握 課題設定

節電の一步

現在使用している蛍光灯をLEDに取り換えた方が節電効果が高い。でもまだ使える蛍光灯を捨てるのはどうなのか？空調設備も省エネタイプに切り替えるべきだと思うけど、切り替えたらどの程度の効果があるのか？製造機械や照明・空調の電気使用量の算出方法はどうか？他社はどのような取組を行っているのか？現状のままではいけないと思うが、節電に関する知識がないため、何から始めればいいのか全く分からない状況でした。

解決策の 提案・実施

目には見えないCO2を、見えるように

I D E C横浜の専門家の助言は、まずCO2の可視化に取り組むこと。そこで、電力会社の請求書をもとに概算で電力単価を算出し、消費電力のコストを数字で捉えるようにしました。そこから蛍光灯などの消費電力を算出して節電効果の可視化を行い、そのほかにも製造機械から漏れている熱エネルギーを減らすと空調設備の電力消費量削減にもなることから、保温カバーの設置などの対処法を考えました。また、CO2排出量の可視化から削減を支援するサービスツールを活用し、数字データとして社内で共有できるようにしました。

今後の取組 フォローア ップ

従業員一丸で脱炭素経営へ

取引先からもCO2の排出量削減を求められる時代となっている昨今、同社は可視化ツールを使用し、節電効果のグラフなどを社内掲示板に貼り出すことで、従業員の意識を高めていくと聞いています。また、今後ウェブサイト等で社外へ脱炭素化への取組の発信を行うと聞いていますので、I D E C横浜は、同社が脱炭素経営で企業価値を高めるための支援を継続していきます。

<利用した支援メニュー> 脱炭素相談窓口

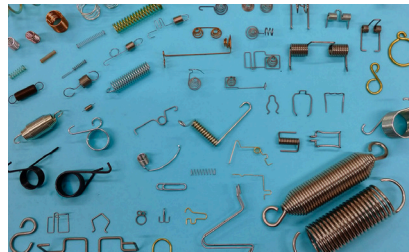
I D E C横浜では、横浜市内の事業者を対象に「脱炭素化」に向けた支援を行っています。脱炭素化の取組や補助金等の相談、申請サポート、温室効果ガス排出量・電気使用量把握のためのセルフ診断の支援などを実施しています。



専門家の助言を受けて 製造ラインを止めずに設備更新



バネ・スプリング製造設備



製品一覧

日生発條株式会社

【所在地】横浜市都筑区大熊町65-6

【業種】製造業

【URL】 <http://www.nissei-hatsujo.co.jp/>

【TEL】 045-472-5895



支援に至った経緯

横浜型地域貢献企業認定を
きっかけにIDEC横浜利用

経営状況の把握
課題設定

空調設備が老朽化する中
での猛暑の夏

解決策の提案・実施

専門家の助言を受けて製造
ラインを止めずに設備更新

今後の取組
フォローアップ

環境に配慮した事業展開

支援に
至った経緯

横浜型地域貢献企業認定をきっかけにIDEC横浜を利用

同社は、「品質は無言の信用と財産」をモットーに、バネ・スプリングを製造しています。令和元年に横浜型地域貢献企業に認定されたことをきっかけに、事業継続力強化計画や、ISOの認定取得に際して、IDEC横浜の専門家が支援を行ってきました。常にお客様のニーズに対応するためには、新たな設備投資が必要であることから、助成金や補助金の活用を提案していました。

経営状況の
把握
課題設定

空調設備が老朽化する中での猛暑の夏

「脱炭素」に関する取引先からの要請はなかったものの、同社は、省エネ効果・CO2排出量削減の見える化に関心があり、ものづくり企業として環境への負荷を最小限にしたいという思いをもっていました。そのような中、空調設備の老朽化により、猛暑日には工場内の温度が高くなるがありました。扇風機や塩飴などの熱中症対策を行っていましたが、高齢の従業員もいることから、空調設備の更新が必要な状況でした。

解決策の
提案・実施

専門家の助言を受けて製造ラインを止めずに設備更新

同社は横浜市の補助金を活用し工場のLED化と空調設備の更新を決めましたが、製造を止めずに設備を更新する必要があり、入念な段取り・計画・施行が必須でした。そこで、IDEC横浜の技術アドバイザーが設備の交換方法について具体的な助言を行い、製造ラインを止めずに更新することができました。さらに、専門家からのアドバイスで、時間帯別や更新前後の省エネ効果・CO2排出量削減効果を洗い出し、電気使用量の推移等をグラフ化できるようになりました。

今後の取組
フォローアップ

今後は「環境に配慮した事業展開」を支援

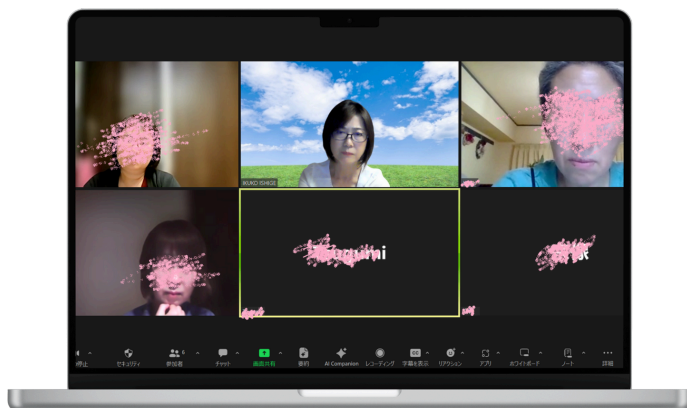
電気使用量軽減の取組方針や節電効果について社内に掲示したことで、取組に対する従業員のモチベーションの維持・向上につながったそうです。年間エネルギー使用量は照明設備は約60%削減し、空調設備については約30%の削減を見込んでいます。また、脱炭素化に取り組んだことで電気料金の削減のみならず、企業イメージが向上されたと感じているとのこと。環境に配慮した今後の事業展開に向けて、IDEC横浜は引き続き同社の支援をしていく予定です。

<利用した支援メニュー> 技術相談

中小企業の技術的な課題の相談に対して、豊富な知識と経験を有する「技術アドバイザー」が解決に向けた助言を行います（年度内3回まで無料）。相談分野は、①機械加工②機械設定③電気・電子④計測制御設計⑤金属材料⑥科学/樹脂⑦生産管理⑧パイオ/食品⑨環境技術/省エネルギー⑩情報技術の全10分野です。



パン教室から社会起業へ 情熱を形にした挑戦と経営相談窓口で得られた自信



毎月開催している、がん患者家族の方との「傾聴の会」の様子



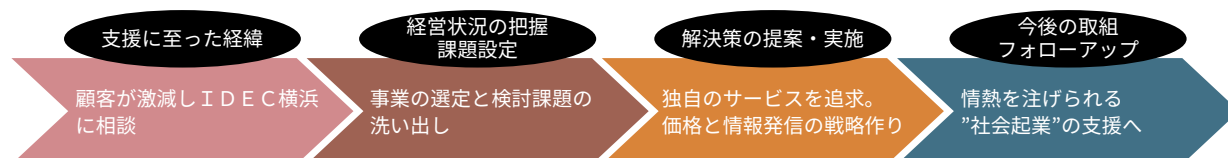
代表理事 石毛 郁子氏

一般社団法人 Heart Care Salon 木洩れ日

【所在地】 横浜市港北区

【業種】 専門サービス業

【URL】 <https://www.facebook.com/hcs.komorebi>



支援に至った経緯

コロナ禍など環境変化で顧客が激減、I D E C 横浜の経営相談窓口へ

パン教室を開業して約25年。パン教室の出張サービスなども手がけましたが、夫のがん闘病で事業を中断していました。その後再開を試みましたが、お弟子さんの生活の変化やコロナ禍の影響により、教室の参加者が激減してしまいました。そこで、以前相談したI D E C 横浜のワンストップ経営相談窓口に戻り来所、取得していたキャリアコンサルタント資格を活用して何かできないか考えることになりました。

経営状況の把握 課題設定

自信と信頼はゼロからのスタート、新事業の取組で直面した壁

経営相談員との面談を経て、キャリアコンサルタント実技面接試験のロールプレイング対策講座を開始することになりました。ウェブサイトでのプロフィールやメッセージの書き方から、顧客のターゲティングや競合との差別化、価格設定など検討課題が多くありました。また、パン教室が対面からオンラインになり、不安に感じられたようです。特に難しかったのは最初の実績づくりで、ご自身の強みを客観視することや、実績がない状況でサービスの信頼性を訴求することが課題でした。

解決策の提案・実施

サービスの作り込みが成功、値上げ後も申込みが続く

経営相談窓口では、相談者ならではのサービスの特徴や、受講生のニーズにどう訴求していくかについて話し合いました。価格について、初期価格を安価に設定し、段階的な値上げを提案。予想よりも早く申込みがあり、実績を作ることができました。また、情報発信強化のため、新規・既存客別アプローチ方法の設定を提案し、さらに、値上げのタイミングや値上げ幅について助言しました。その他、勉強会や交流会など、試験合格後も継続的に提供できるサービスを一緒に考えました。

今後の取組 フォローアップ

生活費のための「仕事」から、情熱を注げられる「事業」へ

定期的な経営相談を繰り返すことで、ご自身の本当に叶えたいことが見えてきたと話します。それは、がん患者の家族をサポートするというご自身の過去に基づいた事業アイデアでした。社会起業について研究するために大学院に進学し、マネジメント、社会的課題解決の戦略などについて学びました。現在は、がん患者遺族で構成された法人を設立し、毎月がん患者のご家族と傾聴の会を開催する傍らキャリアコンサルタントやパン教室の活動も継続して実施しているとのこと。

<利用した支援メニュー> ワンストップ経営相談窓口

横浜市内の中小企業者等の皆さまが抱える経営上の課題や、創業・新規事業に関する疑問などについて、総合的に応える相談窓口です。中小企業診断士、税理士、社会保険労務士、弁護士、弁理士などの専門家とI D E C 横浜の職員が、無料で相談・助言を行っています。抽象的なお悩みでも構いません。



ブランド認知拡大のために展示会に初出展 一貫した世界観を伝えるブランディング支援



ブランドの世界観を表現するために制作したキービジュアル



展示販売会出展ブース

株式会社T A S K L A B.

【所在地】 横浜市港南区下永谷5-29-6

【業種】 製造・小売業

【URL】 <https://tasklaboratory-inc.com/>



支援に至った経緯

ブランド発信を模索し、デザイン相談へ

経営状況の把握 課題設定

ヒアリングを重ね、本質的な課題の明確化と新たな提案

解決策の提案・実施

ブランドを表現するための具体的なアドバイス

今後の取組 フォローアップ

デザインに限らず、継続的に全面支援

支援に至った経緯

出展準備で感じた課題…試行錯誤する中で出会った「デザイン相談」

同社は、こだわりの香水やアンティークボトルを展開するフレグランスブランドです。長年の研究を経て沈丁花の香りを再現した香水を新たに開発し、ブランドの認知拡大を目指して横浜市主催の展示販売会に参加を決めました。しかし、立ち上げたばかりのブランドで販促物が整っていない状況。まずはリーフレットの制作と魅力的な空間演出をしたいと考え、進め方や適した表現方法を模索していました。そのような中、I D E C横浜のデザイン相談のチラシを目にしたことから相談の申込みがありました。

経営状況の把握 課題設定

本質的な課題を明確化、デザイナーの視点をいかした新たな提案

制作物やデザインの希望についてデザイナーとともにヒアリングを重ねる中で、同社のブランドへの情熱と強いこだわりを感じ取りました。同社は展示会までにリーフレットやブースデザインの制作をすることが課題と考えていましたが、本質的な課題は「ブランドの想いをユーザーにしっかりと伝えること」にあると確認。課題解決のためには、各ツールを制作する前に、ブランド全体の一貫した世界観を表現することが必要であると伝え、制作サポートから一歩踏み込んだブランディングを提案しました。

解決策の提案・実施

プロのデザイナーだからできる、ブランド構築の具体的なアドバイス

初回相談で本質的な課題を確認した後は、ブランド構築のための具体的な手法や進め方について、より詳しく意見を出し合い検討しました。一貫した世界観でブランドを表現するためには、グラフィックデザインだけでなく、言葉や写真、さらにはその構成にも統一感を持たせることが重要であるとアドバイス。そこで、デザインコンセプトとキービジュアル（メインのイメージ画像）をリーフレットやブースデザインに展開するように提案し、キービジュアルの制作から着手しました。

今後の取組 フォローアップ

デザインだけでなく、I D E C横浜のリソースをいかした全面支援

同社は、「ないものを創る、あるものに命を吹きこむ」をブランドのモットーとし、新しい香りの研究と開発に妥協はありません。今回、ブランドの世界観が表現できたことで、展示会では多くの来場者が足を止め、同社の商品を体験してくれました。今後I D E C横浜では、同社のこだわりの詰まった商品がより多くの人々に届くように、パッケージやPR等のデザイン支援のほか、事業戦略や販路開拓など、幅広い支援を継続的に提供していく予定です。

<利用した支援メニュー> デザイン相談

グラフィックやプロダクトのほか、Web・SNS、ブランディング、空間デザイン、写真・動画など、企業経営におけるデザインに関する課題に対して、プロのデザイナーが相談に応じます。デザインを通じて課題解決を図りたい事業者は、課題整理から具体的な解決策まで幅広くサポートしています。実制作を依頼する場合は、費用が発生します。



デザインから製作までALL横浜で実現 コロナ禍での挑戦が生む横浜の新たな賑わい



象の鼻パーク内 マルシェ風景



折畳み式マルシェ用什器『ORIICHI』

株式会社N and R Foldings Japan

【所在地】横浜市中区太田町6-70 井上ビル3 F

【業種】デザイン業

【URL】 <https://nandrfoldings.com/index.html>

【TEL】 045-680-5175



支援に至った経緯

経営者同士のつながりから
I D E C横浜を紹介される

経営状況の把握 課題設定

コロナ禍で売上げ減少
下請構造からの脱却を図る

解決策の提案・実施

事業再構築補助金に挑戦
事業計画を作成

今後の取組 フォローアップ

横浜市担当部署に引き合わ
せるなど販路開拓を支援

支援に 至った経緯

横浜青年経営者会のつながりからI D E C横浜の紹介を受ける

同社は、折り畳み式マルシェ用什器の試作開発にあたって事業再構築補助金を活用したいと考えていましたが、補助金申請や事業計画作成の経験がありませんでした。事業協力先であり、試作製造を委託する市内製造業2社からI D E C横浜を紹介されたことから、支援経験豊富な横浜ビジネスエキスパート（中小企業診断士）を派遣し、補助金申請や事業計画作成を支援することになりました。

経営状況の 把握 課題設定

工業デザインの受託会社から自社製品を持つメーカーへ

工業デザイン業である同社は、コロナ禍でアートや販促・広報などのイベントや企画が大幅に減少し、これまでになく売上げが落ち込んでいました。そこで、他社からの受注に頼るだけでなく、より能動的で主体的な事業構造への転換を進めていたところ、象の鼻パーク運営事業者から什器の相談がありました。市内製造業2社と連携し「単に物を置く場所の提供だけでなく出店者と来場者をつなぎ新しいマルシェ体験を可能にする什器『ORIICHI』」の開発に至りました。

解決策の 提案・実施

事業再構築補助金の採択を目指し、事業計画作成を支援

補助金に関する申請要件や申請区分に関する説明から始まり、作成した申請書の内容に対するアドバイスまで、要所所で支援を実施しました。申請期限までに申請書を作り上げることができ、無事、採択となりました。また、申請書作成にあたり、1回きりの試作開発ではなく、視座を高くして、事業という視点から記載するよう助言したことで、視野が広がり、その後の製品改良・拡充等の検討にもつながりました。

今後の取組 フォローア ップ

横浜市担当部署とのマッチング等、販路開拓を支援

『ORIICHI』は、2024年度グッドデザイン賞を受賞するなど、デザイン面で高い評価を受けるとともに、様々なスペースにおいて簡単に折り畳みや展開ができる機能性も受け、象の鼻パークをはじめ、多くの場面で活用されています。

『ORIICHI』による更なる横浜市の賑わい創出を目指す川本社長の思いを受け、I D E C横浜では、横浜市でのイベント等での活用可能性を探るため、担当する部署との引き合わせを実施するなど、引き続き、様々な支援を実施しています。

<利用した支援メニュー> エキスパート面談

「経営戦略」「IT活用」「税務・会計」「販路開拓」「法務・労務・特許」等、様々な企業の経営課題に、中小企業診断士、社会保険労務士、税理士、司法書士、ITコーディネーター等、約100名の多様な専門性を持つ横浜ビジネスエキスパートが具体的かつ専門的なアドバイスをを行います。



見積りから発注、納品、請求までの 作業のシステム化の実現



佐藤社長



同社の工場内にて

有限会社浅一

【所在地】横浜市港北区鳥山町688

【業種】 製造業

【TEL】 045-471-7088

支援に至った経緯

業務改善の意思決定と
検討開始

経営状況の把握 課題設定

課題整理と基本方針の決定

解決策の提案・実施

独自の受発注システムで
業務の効率化と品質向上

今後の取組 フォローアップ

加工の自動化など
更なる効率化

支援に 至った経緯

業務効率改善に向けてシステム化の検討を開始

創業以来、同社では業務を紙で管理しており、受発注時は主にFAXとメールを使用していました。仕入れや外注、売上げ、請求管理は既存のデータベースを使っていましたが、データベースに対応したパソコンが1台しかないため、社長と会長が同時に使用することができず待機時間が発生していました。また、従業員の経験値の違いから作業漏れが発生することがあり業務効率が低下していたため、これらの課題を解決するためにシステム化の導入を検討し始めました。

経営状況の 把握 課題設定

DX人材育成セミナー参加とアドバイザーによるデジタル化支援の開始

システム化に際しどこから着手したらよいのか、また、どこに相談したらよいのか分からず、横浜市が開催した「横浜市DX人材育成セミナー」に参加。このセミナーで、I D E C横浜の技術アドバイザーに相談することになり、これをきっかけにデジタル化支援を開始しました。まず、アドバイザーが同社の現状を聞き取り、課題を整理しました。その結果、①システムの複雑化を避けるため、業務プロセスの簡素化、②処理漏れ・誤りを防ぐため納品・入荷日など受発注情報のチェック機能の設定、③社外のPCやスマートフォンからアクセスできるようクラウド型のシステムにするなどの基本方針を決定しました。その後は横浜市内のシステム会社と話を進めていきました。

解決策の 提案・実施

受発注管理システム導入による業務の効率化と品質向上

当初は、市販のソフトウェアを使ってシステム化を進めようとしたのですが、紙の伝票や図面の管理には限界があり、クラウドでの一元管理ができないという問題がありました。そこで、新たに独自の受発注管理システムを構築し、図面管理をクラウドで対応できる仕組みを導入しました。この取組により、業務漏れが減少し、作業効率が大幅に上がり精度も向上したことで、作業時間の短縮と納品漏れも確認できるようになりました。また、スケジュール管理機能を活用することで、常に納期どりの納品が実現し、全体的な業務の効率化や品質向上にもつながりました。

今後の取組 フォローアップ

正確な見積作成が可能に。更なる効率化と生産性向上に向けて

今回のシステム化により、粗利益計算も可能となり、社長や会長の経験値に頼らず、誰でも正確な見積作成ができるようになりました。その結果、業務の効率化と改善が進み、作業の平準化が図られました。今後は、CADを活用し、システムにデータを取り込んで加工を自動化することを目指しています。さらに、作業の精度向上とスピードアップの実現に向けて、デジタル化を進めることで町工場のイメージを刷新し、若い世代にも興味を持ってもらえるのではないかと同社は考えています。I D E C横浜は、今後も同社の生産性の向上、競争力強化を支援していきます。

<利用した支援メニュー> デジタル化相談

横浜市内に事業所を有する中小・小規模事業者の方に、年度内3回まで無料でデジタル化の相談を実施しています。※4回以上の相談も可能ですが、1回あたり19,800円（税込）をご負担いただきます。



CSRマネジメントシステムの構築と運用 課題への継続的取組により経営力の更なる向上



本社屋・整備工場(外観)



小宮社長(前列右から2番目)と従業員一同

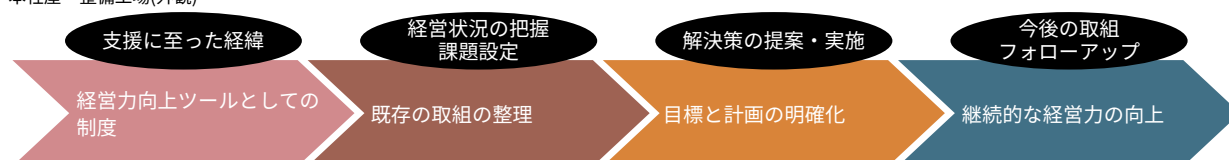
雨宮自動車工業株式会社

【所在地】 横浜市金沢区福浦2-15-5

【業種】 自動車整備業

【URL】 <https://1964amemiya-auto.com/>

【TEL】 045-786-1288



支援に至った経緯

経営力向上のツールとして「横浜型地域貢献企業認定制度」に応募

同社は、既に横浜市の認証制度である健康経営、グッドバランス企業、Y-SDGsを取得しています。また、地元での地域貢献活動にも積極的に取り組んできました。同社はこれらの取組をCSRマネジメントシステムの枠組みにまとめ、「横浜グランドスラム企業」として経営力の更なる向上を目指したいと考え、そのためのツールとして横浜型地域貢献企業認定制度(以下「当制度」)の認証を取得することを決断し、そのための準備を進めることにしました。

経営状況の把握課題設定

既存の取組をCSRマネジメントシステムの枠組みに整理する必要性

同社は既に取得している3つの認証に加え、年間目標を明確に管理する「アクションプラン」、I D E C横浜が紹介した社労士の活用による「人事考課制度」、台風15号の被災後から策定を進めている「BCP」、I D E C横浜ものづくりコーディネーターの活用による「IoT推進」など多くの取組をしています。これらの取組を当制度の観点から見直して、認証取得のために不足している課題、さらに、同社がこれから維持していく各認証を効率的に運用していく必要性を認識しました。

解決策の提案・実施

目標と実施計画の明確化、マネジメントシステム構築を支援

まず、個々の取組と各ステークホルダーのニーズを当制度に基づきCSR項目ごとに整理し、スコア化して重要度の把握をしていただきました。これらを通じて析出されたニーズと、同社がこれまで取り組んできた事業を組み合わせることで、CSRにおける位置づけを明確にできました。次に、認証を取得するために不足していた目標の効果検証のための数値化をアドバイスしました。さらに、これらの運用を年間計画の中に明確にすることで、当制度の認証取得に至っています。

今後の取組フォローアップ

効率的に運用できる仕組みを継続し、一歩ずつ経営力を向上

これまで行ってきた取組をCSRの枠組みの中に整理することで、不足している課題が明確になり、今後は特に「社会インフラを担う特装車の整備工場としてのBCPのブラッシュアップ」「自動車整備という事業を通じた脱炭素社会への貢献」「外国人従業員が働きやすい環境の整備」「情報セキュリティへの取組」等に同社は注力していくと聞いています。少人数でも更に効率的に運用できる仕組みを構築し、一歩ずつ経営力を向上させていくため、同社のこれら取組を今後も支援していきます。

<利用した支援メニュー> 横浜型地域貢献企業認定制度

企業の社会的責任(CSR)を意識しながら本業その他の活動を通じて優れた地域貢献活動に取り組む企業を一定の基準をもとに認定する制度です。事業活動に必要なマネジメントシステムの構築と運用に取り組むことで、企業の経営戦略にいかすことができます。



生牡蠣を世界の食卓へ 海外展開助成金を活用し新たな海外市場を開拓



展示会場で現地メディアの取材を受ける河合社長

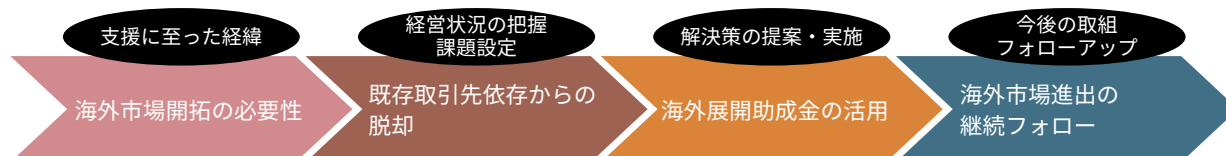


Japan Oysters, Inc.

日本石花株式会社

【所在地】横浜市神奈川区山内町 1
横浜市中央卸売市場水産棟 5 階533号室

【業種】水産物卸売業

【URL】 <https://oysters.co.jp/>【問合せ】 <https://oysters.co.jp/contact/>

支援に至った経緯

社会情勢の変化や国内市場の将来性への懸念から、海外市場開拓へ挑戦

同社は、横浜市中央卸売市場内で日本全国の生牡蠣を扱う唯一の牡蠣専門仲卸業者です。設立当初から主に香港へ輸出していましたが、社会情勢の変化や国内市場の将来性への懸念があるため、新たな海外市場の開拓を検討していました。そのような中、I D E C横浜の「海外展開助成金」について問い合わせがあり、具体的なプランの実現に向けて相談・助言を開始しました。

経営状況の把握課題設定

新たな販路開拓が可能な市場の模索

同社が直面していた課題の一つは、既存取引先（主に中華圏）への依存からの脱却でした。中国による日本産食品の輸入規制は売上げに影響を与えており、新たな市場を探す必要がありました。その課題解決には海外展示会出展を活用した市場開拓が有効であると判断し、既存取引先や未開拓の消費地域とのつながりのあるタイやトルコで開催される展示会に出展することとなり、I D E C横浜は生牡蠣市場の特性を踏まえ、出展に向けた情報提供や助言をしました。

解決策の提案・実施

新たな市場開拓に向け、タイの東南アジアの拠点に

相談を進めていく中、同社は、日本食が多く受け入れられ、かつ、既存の取引地域とつながりの深いタイを東南アジアの拠点とすることにしました。海外展開助成金の活用により、令和5年度はタイのバンコクで開催された「ジャパンセレクション（日本の商品・技術を海外に売り込むB2Bに特化した見本市）」に出展。令和6年度はトルコで開催された「SEAFOOD EXPO EURASIA」に出展したことで、中央アジアやアフリカなど新たな市場への足掛かりを築き、これまで未開拓であったニッチな市場への進出が実現しました。

今後の取組フォローアップ

新たな海外市場開拓に対応した支援メニューでフォロー

同社が新たなへの足掛かりを築くことができた中、世界の食卓に生牡蠣を届けるという同社のビジョンが着実に実現できるよう、引き続き海外市場の最新情報などの情報提供を行います。

また、同社の事業に必要な海外市場での調査、同行支援等を行う「海外サポートデスク」をはじめとした各種支援メニューの利用促進を図っていきます。

<利用した支援メニュー> 海外展開助成金

海外の展示会出展等を行う市内中小企業者向けに、展示会出展費用等の一部（助成対象経費の1/2以内。上限あり）を助成します。展示会出展等に関する各種相談などをあわせて実施しているため、展示会出展等での目標数値や実績予定などを具体的にイメージできます。



エネルギー問題を解決する夢の素材 ダイヤモンド半導体の研究開発スタートアップへの資金調達支援



研究室内の製造装置



小関社長

株式会社 **VISION IV**

【所在地】 横浜市鶴見区小野町75-1
横浜新技術創造館1号館301号室
【業種】 製造業
【URL】 <https://www.visioniv.co.jp>



支援に至った経緯

インキュベーション施設への入居をきっかけに伴走支援を開始

半導体向け合成ダイヤモンド製品の研究開発を行う同社は、2021年に創業し、役員3名で構成された研究開発型スタートアップ企業です。代表の小関氏は、I D E C横浜のインキュベーション施設である横浜新技術創造館の静かで研究に没頭できる環境、インキュベーション・マネージャー（以下「IM」）による経営相談や研究開発実現までの伴走支援が受けられる点、支援メニューの充実等に魅力を感じて、翌年の2022年に入居し、IMへの経営相談をきっかけに資金調達を始めとした支援を受けることになりました。

経営状況の把握 課題設定

研究開発加速のための資金調達と技術力の認知度向上の必要性

同社の強みは、世界最高レベルの人工ダイヤモンド合成技術と経営・知的財産の高度人材を擁している点です。ダイヤモンドは工業用途でも高いニーズがあります。特にダイヤモンド半導体は、従来の半導体と比べて電力損失が圧倒的に少ない「夢の素材」として注目されており、その市場規模は2030年に3,000億円を超えると予測されています。しかし、現状は、競合が少ないブルーオーシャン市場であり、同社の独自技術をいかして早期の事業化を果たせば、先行者利益の獲得が可能です。そこで、IMが相談していく中で、研究開発を加速させるための資金調達と同社の高い技術の認知度向上を目指すことになりました。

解決策の提案・実施

事業計画書の改善が奏功、資金調達と技術力の認知度向上に成功

IMの助言のもと、同社の高度な技術を専門外の人にも分かりやすく説明した新たな事業計画書を作成しました。その結果、日本政策金融公庫の「資本性ローン」や「ものづくり補助金」「横浜市技術系スタートアップ実証実験等支援プログラム」「横浜ビジネスグランプリ2024ファイナリスト」等に次々に採択され、資金調達に成功し研究が飛躍的に加速しました。同時に自社技術を分かりやすく説明することで、投資家や企業に対する認知度の向上につながり、また、多くのニーズがあることが分かりました。

今後の取組 フォローアップ

補助金やVCの資金を活用しダイヤモンド半導体の完成を目指す

I D E C横浜ではIMによる伴走支援を継続し、展示会やピッチコンテストなどを通じた同社の技術力の更なる認知度向上を図り、企業や研究機関との積極的な連携を支援していきます。また、補助金のみならず、国内外のVCからの更なる資金調達を支援し、安定した開発資金を確保することで「エネルギー問題を解決する夢の素材」であるダイヤモンド半導体の開発を支援していきます。

<利用した支援メニュー> 横浜新技術創造館入居に伴うIMの伴走支援 ほか

横浜新技術創造館では、IMが新技術開発・新事業展開を目指すベンチャー・スタートアップ企業である入居者の方へ、経営や技術的課題の相談に応じ、個々の入居者に寄り添った継続的な支援をすることで、事業の成功へ導きます。



未来をつなぐ、
ともに前へ

企業数
60,000社
全国対応

全国 **75** 以上の
金融機関と連携!

Yokohama Big Advance

中小企業の**“経営課題”**をトータルサポート

ビジネスマッチング
Big Advance 参加金融機関が連携し、
地域を超えたビジネスマッチングを実現します。

ホームページ作成
スマートフォンに対応したホームページを簡単に
作成できます。

お問い合わせ
横浜信用金庫YBA事務局
☎045-680-6903
(平日 9:00 ~ 17:00)

新規登録はこちら ▶



このまちの未来をともにつくる
横浜信用金庫

経営に関する
お悩みは **かわしん** へ

例えばこんなお悩みを
解決いたします。

創業・新分野進出

販路拡大

SDGs

知的財産活用

事業承継・M&A

経営改善

資金調達

ご相談はwebフォームをご利用ください

経営課題  資金調達 

<https://www.kawashin.co.jp/> 検索

ホームページTOP>お問い合わせ>その他>メールでのお問い合わせ



川崎信用金庫

お電話でのお問い合わせ(フリーダイヤル)

0120-502-456

受付時間／午前9:00～午後5:00
(土・日・祝日及び12月31日～1月3日を除く)

2024年9月現在

横浜の中小企業の「明日」を身近でサポート

 **横浜市信用保証協会**

信用保証協会は、中小企業・小規模事業者のみなさまが
金融機関から事業資金を借入する際の公的な保証機関です。

 ホームページ

当協会では創業から事業の引き継ぎまで、あらゆるステージのお客さまへ寄り添うため中小企業診断士や公認会計士、社会保険労務士等の資格を持つ専門家を派遣し、経営課題の発見から解決、経営改善計画の策定支援など幅広くサポートしています。

部署名	担当地区	電話番号
本店保証課	●中区 ●磯子区	045-662-6623
新横浜支店	●港北区 ●緑区 ●青葉区 ●都筑区	045-470-5600
横浜駅前支店	●鶴見区 ●神奈川区 ●西区 ●保土ヶ谷区 ●旭区 ●瀬谷区	045-319-5335
上大岡支店	●南区 ●金沢区 ●戸塚区 ●港南区 ●栄区 ●泉区	045-844-6621
経営支援室	経営支援のご相談(横浜市内全地区)	045-662-6624

上海事務所のご案内

中国進出や販路拡大を目指す 企業の皆様のご連絡お待ちしております！

公益財団法人 横浜企業経営支援財団（IDEC 横浜）は、横浜市の友好都市であり、世界でも屈指の経済規模を誇る上海市に1987年から事務所を開設しました。以来37年間、横浜市と中国の経済技術交流を促進するとともに、中国でのビジネス展開を目指す市内企業の皆様のサポートをしています。

上海では横浜から派遣された常勤職員として所長1名の他、経験豊富な現地スタッフが2名、勤務しています。さらに、横浜には上海勤務を経験している職員が横浜側を統括する形で運営しています。上海と横浜が連携することで、横浜企業の中国ビジネスに関わる課題のスムーズな解決を目指しています。

上海事務所では、現地政府や独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）等の外部機関、上海に拠点を置く他の自治体とのネットワークなどと連携することで、現地に根差した企業マッチングや市内企業のPRを行っています。また、コロナ禍の期間には、日中の往来が難しくなる中でも中国マーケットに関心のある市内企業に対して、オンラインによるマッチング機会を提供し、中国でのパートナー探し



上海周辺に進出している横浜企業の集まり「横浜産業倶楽部」を運営。

や販路拡大を行いました。

引き続き、市内企業の皆様の中国市場における課題に寄り添い、ともに課題解決にあたる存在となるべく、現地でのネットワークを広げて活動してまいりますので、中国への進出や販路拡大を考える市内企業の皆様からのご相談・ご連絡をお待ちしております。



浦井所長（中央）と、現地スタッフの張（左）潘（右）。

公益財団法人 横浜企業経営支援財団 上海事務所

📍 上海市長寧区延安西路2201号上海国際貿易中心 813 室

☎ TEL +86-21-6841-5777 ✉ yokohama@idec-sh.com

ハード面でも
支援!

IDEC 横浜の賃貸型研究開発施設をご紹介します

新技術開発、新事業展開を目指す中小、ベンチャー企業の方を対象に、賃貸型の事業拠点を提供しています。横浜市鶴見区の横浜サイエンスフロンティア地区に立地し、横浜市産学共同研究センター、横浜新技術創造館1号館、2号館の合計3棟の施設を運営。試作開発工場、ラボ、オフィスなど約25㎡～120㎡の多様な広さを提供し、研究者の開発ニーズを支援しています。

横浜市産学共同研究センター / 横浜新技術創造館

Yokohama Joint Research Center

Yokohama Leading Venture Plaza

入居者の声



次世代電池の研究開発を行う
「うるたま株式会社」
取締役 齊藤 俊介氏と次世代電池開発部
チーム

「各所からの便が良く、365
日研究に没頭できる研究環
境が気に入っています!
職員の方々による手厚い
フォローを背に受け、社会
を豊かにする技術創造に励
んでいます。」



入居者交流会や支援機関連携も
活発です。



インキュベーションマネージャーが
相談に応じています。

横浜新技術創造館 1号館

3棟ある内の1つ、横浜
新技術創造館1号館
は、建築面積1,340㎡、1
～5階に試作開発工場、
オフィス仕様、ラボ仕
様の3種類、合計38室
を備えています。



ラボ仕様

化学薬品を用いた研究・製品開発が可
能で、耐荷重や電圧等研究に必要な機
能を備えたラボ仕様。

施設の特長



24h利用



専門家のアドバイス



安心のセキュリティ



シャワー室完備



サイエンス
フロンティアに立地



連携しやすい環境



ミーティングルーム



ベンチャー多数



駅徒歩5分



駐車場完備



アクセス

JR鶴見線/「鶴見小野駅」から徒歩5分
首都高速横羽線/生麦インター・汐入インターから5分

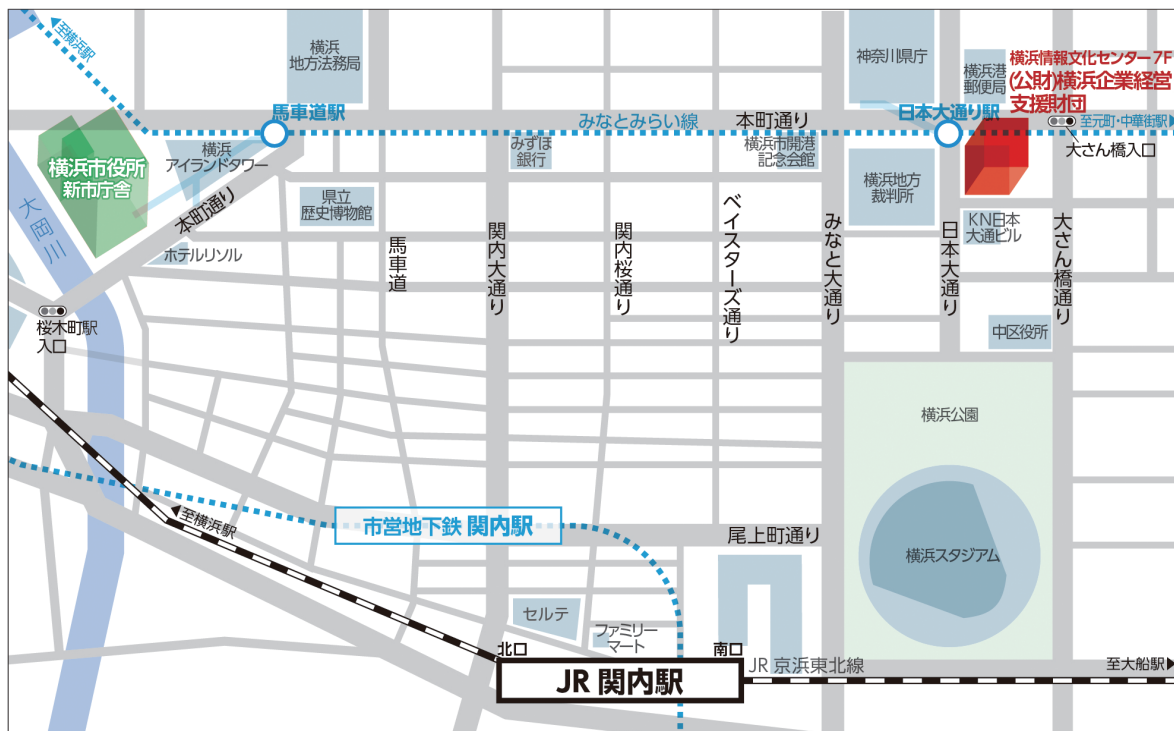
お問い合わせ先

(公財)横浜企業経営支援財団
横浜市産学共同研究センター / 横浜新技術創造館
横浜市鶴見区末広町1-1-40

☎ 045-508-7450 (平日 9:00～17:00)

✉ tsc@idec.or.jp





📍 交通アクセス



電車

- ・みなとみらい線「日本大通り駅」3番情文センター口直結
- ・JR「関内駅」南口徒歩10分
- ・横浜市営地下鉄「関内駅」1番出口徒歩10分



車

- ・首都高速「横浜公園ランプ」3分(駐車場あり・有料)

IDEC
YOKOHAMA

公益財団法人 **横浜企業経営支援財団**

Yokohama Industrial Development Corporation

〒231-0021 横浜市中区日本大通11番地 横浜情報文化センター7F

IDEC横浜



TEL **045-225-3700** (代表) FAX **045-225-3737**

WEB <https://www.idec.or.jp/>



脱炭素取組宣言

City of YOKOHAMA

IDEC横浜では、横浜市の「脱炭素取組宣言」企業を応援しています。
経営力向上のほかにも様々なメリットがある「脱炭素宣言」はこちらから。
IDEC横浜内に脱炭素化に関する専門相談窓口を設置しています。
お気軽にご利用ください。

